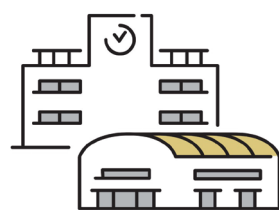


職業レディネス・テストと職業

—— 中学校の「職業調べ」に役立つVRTの活用方法



中学校では、職場体験の事前学習として「職業調べ」を行います。生徒はまだ多くの職業を知りません。そこで、職業についての知識を広げ、自分の興味を生かせる職業を探るための入り口として、職業レディネス・テスト（VRT）が役立ちます。生徒の興味や自信を職業へつなげ、さらに充実した「職業調べ」にするためのVRTの活用方法をご紹介します。



VRTと職業

VRTの検査結果では、興味が生かせるような職業名が例示されますが、それがそのまま本人の適職であると解釈することはできません。その職業について調べ、今後の進路を検討する職業探索の入り口として活用することをお勧めします。

また、VRTでは職業をR・I・A・S・E・Cの6つに分類しますが、職業は必ずしも1つの領域だけに関連するわけではありません。例えば、R領域（現実的）に分類される職業でも、隣接するI領域（研究的）に近いものもあれば、C領域（慣習的）に近いものもあります。職業を一面的、固定的に捉えることなく、実際のタスク（職務の内容を詳細に見たもの）を理解することが大切です。

本特集では、RIASECの各職業領域に該当する職業から一つずつピックアップし、連載「しごとインタビュー」で実際にその職業で活躍されている方々に伺ったお話を紹介します。

今回は、いつもの「しごとインタビュー」にプラスして、厚生労働省の職業情報提供サイト「job tag」で紹介されている情報をもとに職業のタスクに注目し、それぞれのタスクをRIASECに関連づけて掲載しています。「職業調べ」の資料として、ぜひご活用ください。

職業レディネス・テストとは

興味と自信、基礎的志向性

職業レディネス・テスト（VRT）は、「職業に対する興味・自信の傾向（職業志向性）」と「日常生活での興味の傾向（基礎的志向性）」を捉えるものです。

自らの興味・関心や日常生活での志向性を手がかりにして、自分はどういう特徴を持っているのかを考え、自覚し、進路や将来の職業・キャリアと関連づけた探索ができます。

興味・関心は、人それぞれの個性を反映し、表すものであり、価値観、態度などとともに、パーソナリティを形成する要素の一つです。

RIASEC——ホランドによるパーソナリティ・タイプの6類型

アメリカの心理学者J・L・ホランドは、個人のパーソナリティ・タイプ

をR・I・A・S・E・Cという6類型に分類し、また人が働く環境にもその6類型のモデルがあると考えました。

「同じ職業環境にいる人々は共通するパーソナリティを持つ傾向がある。人は、自分の持っている技能や能力が生かされ、価値観や態度を表現でき、自分の納得できる役割や課題を引き受けさせてくれるような環境を求める」とし、実際は人間は多種多様ですが、6つに類型化することで職業選択の際のヒントに活用できると考えたのです。VRTの興味・自信度の測定には、その6類型の尺度が用いられており、基礎的志向性にはD（対情報）・P（対人）・I（対物）の3尺度が用いられています（左ページ参照）。

自分の個性、自分の将来について考える

VRTは基本的に中学生、高校生を主な対象としてつくられているため、各項目の表現もわかりやすく、また興

味・自信の傾向から自分の特徴を把握するものなので、受検者に心理的な抵抗をほとんど感じさせることなく実施できます。

具体的な職業選択にはまだピンと来ないとしても、中学生の段階で自分の将来について考えてみる機会を持つことは大切です。自分の個性はどのようなものか、そしてこれから先どのような進路、進学先を選ばよいか、どのような生き方をし、どんな人生を送りたいのかといったことについて考えるきっかけとなります。その際、中学生はまだ職業についての知識が少なく職業意識も希薄なため、まずは社会にどんな職業があるのかを知ることが重要です。

この時期の職業興味は、様々な経験や活動によって大きく変化していく可能性が含まれているため、結果を固定的に解釈せず、将来を見据えたときにどのような段階にあるかという視点を重視したほうがよいでしょう。

■ VRTが測定するもの —— 興味・自信・基礎的志向性



VRTはA・B・Cの3つの検査から構成されています。

■ A 検査 [職業興味] を知る

■ B 検査 [基礎的志向性] を知る

■ C 検査 [職務遂行の自信度] を知る

それぞれの検査で、仕事内容や日常生活行動についての設問に「やりたいか・やりたくないか」「あてはまるか・あてはまらないか」を回答します。

職業興味

職務遂行の自信度

基礎的志向性

R 現実的職業領域

機械や物を対象とする
具体的な活動

- タスク例
- 機械を使う仕事
 - 物を扱う・作る仕事
 - 動物にふれる仕事

I 研究的職業領域

研究や調査などの
探索的な活動

- タスク例
- 研究する仕事
 - 調査する仕事
 - 考える仕事

C 慣習的職業領域

定まったやり方に従って
行う事務的な活動

- タスク例
- 事務的な仕事
 - 規則的な仕事
 - マニュアルがしっかりしている仕事

A 芸術的職業領域

音楽、美術、文学など
芸術的な活動

- タスク例
- クリエイティブな仕事
 - 想像力を使う仕事
 - 感性を使う仕事

E 企業的職業領域

新しい企画を考えたり、
組織を運営する活動

- タスク例
- 人や社会を動かす仕事
 - 計画を立てる仕事
 - リーダーシップを発揮する仕事

S 社会的職業領域

人と接したり、
人を援助する活動

- タスク例
- 人前に出る仕事
 - 人に教える仕事
 - チームで行う仕事

D 対情報志向

知識、情報、概念、データ
などを取り扱う活動

- タスク例
- 情報を集める
 - 好奇心を満たす
 - 情報を活用する

P 対人志向

人を援助するなど、
人と直接かかわる活動

- タスク例
- 自分を表現する
 - みんなと行動する
 - 人の役にたつ

T 対物志向

機械、道具、装置など物
を取り扱う活動や外での活動

- タスク例
- 物をつくる
 - 自然に親しむ

■ 中学校の授業での実施例

中学校では多くの場合、授業(2コマ)の中で実施・解説します。付属のワークシートには多くの職業例が記載され、生徒は自分の興味・自信と職業とのつながりを知ることができます。さらに、検査結果や職業例をヒントに「職業調べ」を行うことで、生徒の中にある職業の世界が広がり、進路や将来について考えるきっかけになります。

1 コマ目 検査を実施する(40～45分)

▼ 判定依頼または自己採点

2 コマ目 結果を解説し、活用する

▼ さらに…

3 コマ目 「職業調べ」をする

職業領域の分類だけでなく、タスクまで掘り下げて、興味が生かせそうな職業について知る。

個別面談 個別に話し合う

次ページからの「しごとインタビュー」で職業とタスクの参考例を紹介します！

